

## 初秋季のシートマルチ処理による‘河内晩柑’の品質向上

三原崇史・奥田良幸  
(熊本県農業研究センター天草農業研究所)

Takashi Mihara and Yoshiyuki Okuda :  
Improvement of Fruits Quality by Nonwoven Fabric Mulch in Early Autumn in ‘Kawachibankan’

‘河内晩柑’は天草地域の特産果樹であり、食味はさっぱりとした低糖高酸の果実である。しかし、近年非破壊選果機の導入で温州みかんに限らず中晩柑においても高品質が求められる時代となったことから、‘河内晩柑’においても糖度向上が急務となってきた。

そこで、初秋季にシートマルチを行うことにより品質特に糖度の向上について検討した。

### 1. 材料および方法

天草農業研究所内ほ場に植栽されている‘河内晩柑’7年生を供試し、8月中旬および9月中旬から11月中旬まで透湿性シート(タイベック)によるマルチ処理を2か年間(2001年~2003年)行い、果実品質に及ぼす影響を検討した。試験規模は1区1樹3反復とした。調査は果実肥大、果実品質、土壌水分を定期的に調査し、3月中旬の収穫時点では1区10果の果実分析を行った。

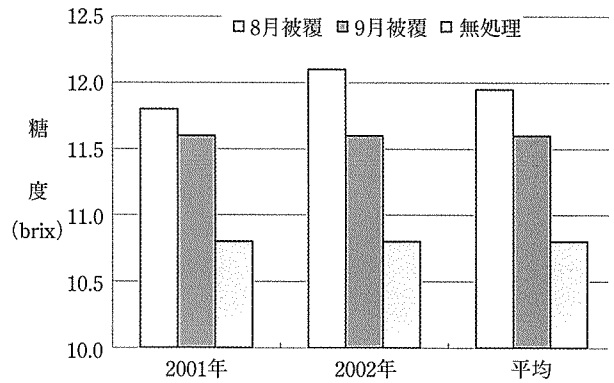
### 2. 結果および考察

1) 初秋季(8月, 9月)から11月までシートマルチ処理を行うことにより、増糖効果がみられた(第1図)。

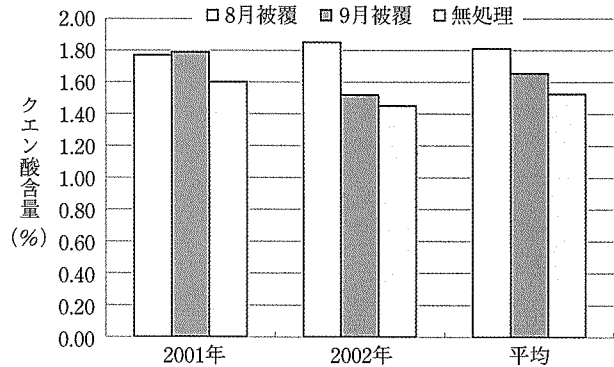
2) シートマルチ処理を行うことによりクエン酸含量は若干高い傾向にあった(第2図)。

3) 果実および樹体については8月からのシートマルチ処理が果実がやや小さく、葉色も低下していることから、9月からのシートマルチ処理が有効である(第1表)。

以上の結果、8月, 9月のシートマルチ処理による果実品質は同等に良好であるが、9月被覆が樹体への影響が少ないこと、さらに‘河内晩柑’は初秋季の施肥が冬季の生理落果防止に大きく影響していることを考慮すると、初秋季施肥後の9月中旬から晩秋季施肥前の11月中旬までの2か月間をシートマルチ処理することが有効と考えられる。



第1図 年次別の糖度



第2図 年次別のクエン酸含量

注) 2001年(2002年3月6日分析), 2002年(2003年3月5日分析)。

第1表 処理開始時期と果実品質<sup>a)</sup>

処理区	横径 (mm)	縦径 (mm)	1果重 (g)	果肉歩合 (%)	糖度計示度	クエン酸 (%)	葉色 <sup>b)</sup>
8月被覆	102.8	97.1	396.9	61.8	12.0	1.81	65.9
9月被覆	103.3	101.5	415.6	61.0	11.6	1.66	74.1
無処理	107.7	106.2	446.0	61.9	10.8	1.53	76.7

注) a) 果実品質は2か年平均(分析日は同上)。

b) 葉色については2002年データ。